

総括

■ 種別

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」を適用して審査を実施した。

■ 認定の種別

書面審査および10月13日に実施した訪問審査の結果、以下のとおりとなりました。

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」認定

■ 改善要望事項

高度・専門機能「リハビリテーション（回復期）」
該当する項目はありません。

1. 病院の特色

貴院は1908年に相澤医院として設立されて以来、長きに渡り地域医療に貢献しており、地域の救急医療・高度急性期医療の核として、信頼を得ている。2014年に回復期リハビリテーション病棟が開設され、急性期治療後に貴院にて継続的にリハビリテーション治療を受けられる体制を整備している。

今回の高度・専門機能リハビリテーション（回復期）の受審においては、より専門性の発揮という観点から課題も提示させていただいたが、今回の受審がより質の高い回復期リハビリテーション医療を目指す契機となれば幸いである。

2. 良質な回復期リハビリテーションを提供するための組織運営

回復期リハビリテーション病棟の理念や基本方針は病院組織として定められ、病棟に掲示するなど、周知されている。病棟にはリハビリテーション科専門医を専従配置し、365日十分なリハビリテーション・ケアを提供するための専門職が配置されている。急性期一般病棟からの転棟患者が主体であり、急性期からのリハビリテーション・ケアの継続性を確保するため、カルテや口頭の申し送りを中心に情報を伝達している。

病棟には多職種で構成された複数名の安全管理担当者を配置し、患者の安全確保に向けた体制を整備している。より積極的にインシデント報告を行い、再発防止に向けて対応することを期待したい。患者個々のリスクについては、入棟時に全てのスタッフが把握し、主治医より必要な指示が出されている。患者の急変時に迅速に対応できるよう実際の状況を設定したシミュレーション訓練の実施を期待したい。臨床現場において、各職種は患者の重症度やFIMなどを評価し、事務部門がデータ

の集計や解析を行い、月々の結果は病棟運営会議で共有されている。病棟における問題点の抽出から、具体的に課題の分析につなげ、解決策を立案している。自院の急性期医療が充実しており、院内完結型の回復期リハビリテーションを提供している。回復期リハビリテーション病棟において原疾患の再発がある場合や合併症に対する治療が必要な場合は、他科の医師と連携して対応している。入院時より、重症患者や独居など、自宅復帰が困難な患者・家族の状況をチームで把握している。担当社会福祉士が中心となり、患者・家族に医療機関の特性や地域にある各施設に関する情報を提供している。

3. 回復期リハビリテーションに関わる職員の専門性

リハビリテーション科専門医は、担当する患者以外の患者を含めて回診を行い、他の担当医をサポートしている。医師は回診や看護・介護職、療法士からの報告・相談を受けて、病棟における患者の生活の状態を把握しているが、医師がリハビリテーション総合実施計画書の説明を行うことを期待したい。また、チームカンファレンスや回診などで、各専門職の報告を受け、それぞれの目標や計画策定に関与し、カンファレンスや勉強会を通して、他職種に対する教育や指導を行っている。看護師・介護福祉士はそれぞれの業務分掌に基づき、業務基準・手順を整備し、役割分担を明確にして日常業務を遂行している。起床から食事・排泄・整容・入浴・訓練など、患者個々のスケジュールに沿って介入している。看護師はクリニカルリーダーに基づき、年間の研修計画と全体研修に沿って看護の質の向上に取り組んでいる。介護福祉士も独自の勉強会を計画して質の向上に取り組んでいる。

理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の役割を明確にしており、標準化された評価に基づいて各療法の計画を立案し、訓練を行っている。多職種とともにベッド周辺の環境について検討し、入浴、更衣に介入するなど、患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている。今後、全患者を対象に家屋状況の把握に努め、個別性に応じて介入することを期待したい。療法士は、定期勉強会や症例検討会、院外での研究発表や講演に参加し、多数の資格取得者が在籍するなど、質向上に向けて取り組んでいる。社会福祉士は患者が回復期リハビリテーション病棟に入棟した日から患者・家族のニーズを把握し、チームと情報を共有している。また、他職種から情報等により病棟生活における患者の身体面、心理面の状況を把握し、退院支援に活用している。管理栄養士は主体的に病棟業務に携わり、リハビリテーションの進捗、活動量、摂食・嚥下機能の変化に応じた食事量や内容、食形態を見直している。栄養状態に問題のある患者を抽出し、院内のNSTとしても、経腸から経口摂取への移行のサポートを行っており、適切にチーム医療に貢献している。

4. チーム医療による回復期リハビリテーション・ケアの実践

回復期リハビリテーション病棟に入院する患者の多くが急性期病棟からの転棟であり、転棟の適応は、医学的管理の必要性や認知機能、重症度などを鑑みて多職種で検討している。入棟時および初回のチームカンファレンスにより、各職種の評価、目標、介入について共有しているが、リハビリテーション・ケア計画などは

ICF の観点からより具体的かつ個別的に立案することを期待したい。急性期病棟から継続して、週末や祝日も含め、入棟日からリハビリテーション・ケアを行っており、スケジュールはわかりやすく提示し、患者・家族に共有している。全患者に対して、おおむね月 1 回のカンファレンスを実施し、現状と目標との乖離について検討し、各職種は目標を達成するための方針等について見直しを行っている。リハビリテーションの進捗に応じて、各職種が分担して取り組むべきことなどを明確にすることを期待したい。入院早期より、看護師や社会福祉士等は自宅復帰に向けた課題を検討しており、チームと共有している。今後、外泊訓練、入院時・退院前訪問指導の充実にも期待したい。

1 良質な回復期リハビリテーションを提供するための組織運営

評価判定結果

1.1	良質なリハビリテーションを提供するための体制	
1.1.1	回復期リハビリテーション病棟の運営に関する方針が明確である	II
1.1.2	良質な回復期リハビリテーション機能を発揮するために必要な人員を配置している	II
1.1.3	リハビリテーションを提供するための組織体制が確立している	II
1.2	安全で質の高いリハビリテーションを実践するための取り組み	
1.2.1	患者の安全確保に向けた体制を整備している	III
1.2.2	患者の急変時に適切に対応できる仕組みを整備している	III
1.2.3	安全で安心できる療養環境の整備に努めている	II
1.3	質改善に向けた取り組み	
1.3.1	回復期リハビリテーションの質改善に必要なデータを収集し活用している	II
1.3.2	回復期リハビリテーションに関する自院の課題の把握と対応策を検討している	II
1.3.3	回復期リハビリテーションに関する教育・研修を行っている	II
1.4	地域の医療機関等との連携とリハビリテーションの継続に向けた取り組み	
1.4.1	急性期病院と円滑に連携している	II
1.4.2	自宅復帰後のリハビリテーション・ケアの継続に向けて地域サービス提供機関等と円滑に連携している	II
1.4.3	自宅復帰が困難な患者のリハビリテーション・ケアの継続に向けて施設等と円滑に連携している	II

2 回復期リハビリテーションに関わる職員の専門性

評価判定結果

2.1	回復期リハビリテーション病棟における医師の専門性の発揮	
2.1.1	医師は専門的な役割・機能を発揮している	Ⅱ
2.1.2	医師は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅲ
2.1.3	医師はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ
2.1.4	医師は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ
2.2	回復期リハビリテーション病棟における看護・介護職の専門性の発揮	
2.2.1	看護・介護職は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.2.2	看護・介護職は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.2.3	看護・介護職はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ
2.2.4	看護・介護職は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ
2.3	回復期リハビリテーション病棟における療法士の専門性の発揮	
2.3.1.P	理学療法士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.3.1.0	作業療法士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.3.1.S	言語聴覚士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.3.2	療法士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅲ
2.3.3	療法士はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ
2.3.4	療法士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ
2.4	回復期リハビリテーション病棟における社会福祉士の専門性の発揮	
2.4.1	社会福祉士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.4.2	社会福祉士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.4.3	社会福祉士はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ

2.4.4	社会福祉士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ
2.5	回復期リハビリテーション病棟における管理栄養士の専門性の発揮	
2.5.1	管理栄養士は役割・専門性を発揮している	Ⅱ
2.5.2	管理栄養士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	Ⅱ
2.5.3	管理栄養士はチーム医療の実践に適切に関与している	Ⅱ
2.5.4	管理栄養士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ

3 チーム医療による回復期リハビリテーション・ケアの実践

評価判定結果

3.1	初期評価とリハビリテーション計画の立案	
3.1.1	初期評価を適切に行っている	Ⅲ
3.1.2	リハビリテーション計画を適切に立案している	Ⅲ
3.2	専門職による回復期リハビリテーション・ケアの実施	
3.2.1	各職種により患者に必要なリハビリテーション・ケアを実施している	Ⅱ
3.2.2	リハビリテーションの進捗状況を共有している	Ⅱ
3.3	多職種による課題の共有と対応	
3.3.1	定期的な情報共有による新たな課題の評価・検討を行っている	Ⅲ
3.3.2	新たな課題の解決に向けたリハビリテーション・ケアを実施している	Ⅲ
3.4	自宅復帰に向けた多職種による協働	
3.4.1	自宅復帰とその維持に必要な患者固有の課題の評価・検討を行っている	Ⅲ
3.4.2	自宅復帰とその維持に向けた課題の解決のための具体的な取り組みを行っている	Ⅲ